

	課題分析	授業改善策	改善状況
国語	<p>【文章読解】 ○文章を読み取るための力が十分でない生徒がいる。</p> <p>【言語活動】 ○「話すこと」への苦手意識から自分の言葉で表現することが難しい生徒が多い。</p>	<p>【文章読解の向上】 ○内容理解のために、基本となる言語をしっかりと押さえさせる。説明的文章の構成や文学的文章のポイントなどを、各作品で具体的に捉えさせる。</p> <p>【言語能力の向上】 ○日常の授業の中の意見交換やスピーチなど、経験を重ねていくための時間を確保する。 ○語彙を広げられるよう、新出の語句について使えるように練習していく。</p>	
社会	<p>【知識・技能】 ○決まったことを実践する力がある生徒と語句を覚えることも困難である生徒の差が大きい。今後も必要な知識を活用する力が求められる。</p> <p>【思考力・判断力・表現力】 ○物事を覚えることは得意な生徒が多いが、資料を見て考える力は決して高くない。また、個人差も大きい。加えて、多面的・多角的な見方ができず、1つの答えを探し、分からないと思考が止まってしまう生徒も多い。</p> <p>【学びに向かう力】 ○授業の振り返りを工夫しながら行う生徒が多くいる反面、文章を書くことを拒絶してしまう生徒もいる。</p>	<p>【知識・技能】 ○教科書・資料集などを多く活用して、ICT機器も活用し、資料を読み取る力を伸ばす工夫を行う。</p> <p>【思考力・判断力・表現力】 ○自分の考えをまとめさせる場面を多くつくり、表現する力を付けさせる。簡単な課題から難しい課題まで様々なパターンで提示できるようにする。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 ○授業で得た知識を基に、考察し、まとめられるような活動を、タブレットPCなどを活用し行うことで、自分で進んで取り組めるようにする。 ○授業の中で、時事に関する問題を取り上げることによって、社会事象に関心をもたせ、その問題に主体的に考える力を付けさせる。</p>	
数学	<p>【基礎計算力】 ○毎回の授業や定期考査の解答状況から分析すると、生徒の大半は基礎計算力が身に付いている。しかし、細かいケアレスミスも見られるため、基礎計算力の確実な定着を更に図る必要がある。</p> <p>【数学的な見方や考え方】 ○授業で発展的な問題につまずきがみられる生徒が多い現状がある。応用問題を解くための発展的な力を高める指導が必要である。</p>	<p>【基礎計算力の向上】 ○毎時間、授業の導入で基礎計算練習を行う。 ○問題演習において、途中式を確実に書く指導を行う。 ○既習事項についても途中式などの丁寧な板書を行う。</p> <p>【数学的な見方や考え方の向上】 ○演習時間を十分に確保することや、ワークシートを利用することで、様々な問題に取り組みませ、多様な考え方を身に付けさせる。</p>	
理科	<p>【科学的思考】 ○「科学的に考える」姿勢が、身に付いていない生徒がいる。</p> <p>【理解】 ○個々の事象に対する理解が十分ではな</p>	<p>【科学的思考】 ○科学的思考を促すような、授業展開・発問を行う。</p> <p>【理解】 ○視聴覚教材等の活用や指導方法を工夫し、理</p>	

	<p>い生徒がいる。</p> <p>【基礎的事項】</p> <p>○正確な知識の定着が不足している生徒がいる。</p> <p>【文章表現能力】</p> <p>○文として成り立っていないものや、的外れな内容の文を書く生徒が多い。</p>	<p>解を促す。</p> <p>【基礎的事項】</p> <p>○ワークシート等を活用し、基礎的内容の定着を促す。</p> <p>【文章表現能力】</p> <p>○文で表現させる指導を随時行う。</p>	
音楽	<p>【興味・関心】</p> <p>○生徒の興味・関心を高める工夫が必要である。</p> <p>【創意工夫】</p> <p>○多様な音楽表現の豊かさや美しさを感じ取り、表現の技能を伸ばし、創意工夫して表現する能力を身に付けさせる必要がある。</p> <p>【達成感】</p> <p>○自己評価を学校行事との関連を図りながら行い、達成感・充実感をもたせる。</p>	<p>【主体的な活動】</p> <p>○多様な音楽の豊かさや美しさを感じ取り、音楽的視野を広げる。</p> <p>○音楽に対する理解を深めるために、幅広く主体的に鑑賞する能力を高める。</p> <p>【自己評価】</p> <p>○自己評価を行い、授業への取組を把握する。</p>	
美術	<p>【関心・意欲・態度】</p> <p>○意欲的な制作態度の持続を図る。</p> <p>○1、2年で習得したことを生かし、高い意欲を無駄にすることなく義務教育最後の美術の時間を有効に過ごさせる。</p> <p>【発想や構想力】</p> <p>○柔軟な発想力の向上を図る。</p> <p>【鑑賞力】</p> <p>○美術作品鑑賞への興味を高める。</p>	<p>【制作意欲の向上】</p> <p>○芸術活動は様々な分野と関係していることを知らせ、より広く深く学び興味を高めさせ、制作できる教材を作る。</p> <p>【発想、構想力の向上】</p> <p>○短時間イメージトレーニング課題を定期的に行い発想力を高める。</p> <p>【鑑賞力を高める】</p> <p>○鑑賞カードを使い、芸術作品をより多く見る機会を設ける。</p>	
保健体育	<p>【健康安全に留意した授業】</p> <p>○『授業規律』をしっかりと守り、落ち着いて安全に授業に取り組む姿勢を身に付けさせることが必要である。</p> <p>【個に応じた指導】</p> <p>○運動の得意な生徒と苦手な生徒との能力差に対応する指導の工夫が必要である。</p> <p>【自主的課題解決】</p> <p>○自ら課題を設定し、自主的に課題解決に取り組む力を育む指導が必要である。</p>	<p>【健康安全な授業】</p> <p>○準備運動、補強運動を丁寧に行い、授業の説明や注意点を落ち着いた態度で聞かせ、理解させる。</p> <p>【段階的な指導の工夫】</p> <p>○授業のねらいを明確にし、見通しをもたせ、スモールステップで技能練習を繰り返し行う。また、ICT機器などを有効に活用する。</p> <p>【課題発見活動】</p> <p>○授業の振り返りを『個人記録カード』に記入させ、点検しアドバイスをする。また、ICT機器などを有効に活用する。</p>	

技術 家庭	<p>技術分野</p> <p>【興味・関心】</p> <p>○各分野において、他教科との関連性をもたせ、生産・消費の視点や職業などのキャリア教育という観点から、関心意欲を高める必要がある。</p> <p>【工夫創造】</p> <p>○基礎的・基本的な知識の定着を図る必要がある。目まぐるしい時代の変化に対応するため、その知識を基に、新しい発想を生み出そうとする姿勢を育む必要がある。</p> <p>【技能】</p> <p>○ものづくりに必要な技能の習得を製作実習を通して学ぶ必要がある。特に、製図に関しては、空間認知能力を養う必要がある。</p>	<p>技術分野</p> <p>【目標の把握】</p> <p>○題材ごとの評価内容・方法を明確に提示し、授業のねらい・目標を理解させる。</p> <p>【教材選択】</p> <p>○生徒の技術的な興味・関心を理解した上で教材を精選する。</p> <p>○製作実習において、一つの作品を時間内に終わらせることのできる教材を選択し、作品を完成させた達成感を味わわせる。</p> <p>【学習の定着】</p> <p>○製作実習時の技能試験、題材終了時に確認テストを実施する。</p>	
	<p>家庭分野</p> <p>【関心・意欲・態度】</p> <p>○学習意欲は高く、授業における聞く姿勢や試験前の家庭学習の取組は大変良い。一方で、日頃の授業における発問に対する挙手・発言が少ない。よって、生徒の関心・意欲を高め、授業に積極的な姿勢で臨めるような工夫が必要である。</p> <p>【乳幼児に対する関心と関わり方の技能】</p> <p>○身近な兄弟や親戚に乳幼児期の子供がいない生徒も多く、乳幼児への関心や関わり方の知識・技能に課題がある。</p>	<p>家庭分野</p> <p>【主体的な学びに繋げるための工夫】</p> <p>○意見交換がしやすい生徒同士でのグループ活動やゲーム形式の学習活動、製作活動などを取り入れて、生徒の学習意欲を高めたり、発言しやすくしたりする。</p> <p>【乳幼児への関心と関わり方の技能の向上】</p> <p>○シミュレーション形式のワークや視聴覚教材を積極的に取り入れ、乳幼児期の子供の特徴を具体的に理解しやすいようにする。</p> <p>○自分自身の子供との関わりについて振り返ったり、将来の関わりについて考えたりする学習活動を充実させる。</p>	
英語	<p>【知識・理解】</p> <p>○基礎基本の定着を図るため既習事項の繰り返しの学習が必要である。</p> <p>【表現】</p> <p>○スピーチや英作文等の自己表現活動に苦手意識をもつ生徒が多い。身近な話題から英語で表現する経験を重ね、自信をもって話したり書いたりできるようにする。</p> <p>【授業の実態】</p> <p>○ペアワーク・グループワークにおおむね意欲的に取り組んでいるが、意欲・理解力に差があり、個に応じた配慮が必要で</p>	<p>【語彙指導】</p> <p>○フラッシュカードや辞書を活用して、語彙を広げたり、深めたりする活動を継続し、基礎の定着と応用力を身に付けさせる。</p> <p>【表現活動】</p> <p>○ペアワークやスピーチ等の言語活動で、即興で発話する機会を増やし、達成感や自信につながる。</p> <p>【学習の定着】</p> <p>○ワークで基礎の確認をし、生徒の実態に応じてワークシートを作成する。また、eライブラリーで補充学習を行う。</p>	

	ある。		
--	-----	--	--